



始業前に、村瀬幸雄頭取からの新年のメッセージを見る
行員＝岐阜市神田町、十六銀行本店

岐阜の経済 「立て直す」

県内企業トップ訓示

県内の企業で4日、仕事始めを迎えた。新型コロナウイルスの影響を受けた岐阜経済の立て直しを図る意味で、正念場となる一年。各企業では、密を避けるためリモートなどでトップが社員に結束を呼び掛け、社業の躍進を誓った。主な企業経営者の訓示をまとめた。

時代の変化、チャンスに

世界の政治、経済、社会の枠組みが大きく変わりつつあり、時代が変わっていく流れにあると感じている。「地域とともに」「お客さま目線」、こうしたベースをしっかりと堅持したうえで、従来のビジネスモデルの転換をスピードを上げて実践していかないとけない。今年はこの変化をチャンスととらえ、全員がチャレンジし、あらゆるものを変えていく。そういう年になればと考えている。皆さんの活躍を期待している。



境敏幸頭取
十六銀行

大きな転機、臆せず挑戦

10月に予定する持株会社体制への移行は、143年の歴史の中で第二の創業とも言える大きな組織改編。新しいことに臨むことなくスピード感を持って挑戦し続ける企業風土へと変革していくことが必要だ。新しいグループ形態の下、長期ビジョンに掲げる「ともに地域の未来を創造し、ともに持続的な成長を遂げる総合金融グループ」を目指し、ステークホルダーとのエンゲージメントを高め、新たな時代を創り上げていく。



村瀬幸雄頭取
十六銀行

経営力強化で信頼獲得

コロナ禍の終息が見通せない中、お客さまにとっても当金庫にとってもコロナの影響をどう克服し生き抜いていくかが一番の課題。そのためには金庫自身が健全な経営体力を維持し、コロナ禍でも収益を向上させることが不可欠。そして、お客さまが困った立場にある時ほど、相手の立場に立つた心配りの効いたコミュニケーション力が必要とされる。絶えざる経営力強化が、お客さまへの優しさの提供、信頼獲得の礎になる。



市原好二理事長
東濃信用金庫

顧客の本業支援に軸足

いまだ出口の見えないコロナ禍の中、今年は金融面の支援にとどまらず、お客さまの本業支援へと活動の軸足を移す。的確にニーズを把握し、ビジネスマッティングや新規事業・異業種分野への進出支援など、実効的な課題解決型営業に注力していく。お客さまに寄り添い、「お客さまのために何ができるかを常に問いかけながら」とともに発展していくという揺るぎない信念を持って、この難局を皆さんとともに乗り越えていきたい。



住田裕綱理事長
岐阜信用金庫

選ばれる店や商品提供

コロナ禍への対応の年から、いつも増して希望とともに歩みたいと誰もが願う年が明けた。お客さまに選ばれる店づくりを考え抜き、生鮮強化、商品開発を進め、手応えを感じている。さまざまな変化への対応に終わりはなく、想像力を広げて信頼され選ばれる店、商品、サービスを提供できる製造小売業を目指し進んでいかなければならない。逆境はチャンスと捉え、広い視野で新たなビジネスモデルづくりへと挑戦を続けていきたい。



田代正美会長兼社長
パローホールディングス

課題解決型営業に注力

今年は新しい生活のあり方「ニューノーマル」に柔軟に対応するとともに、経済活動の停滞により課題を抱えたお客さまの本業支援に注力すべき一年と考える。蓄積されたノウハウや提案能力を遺憾なく発揮し、お客さまの課題解決につなげたい。新型コロナウイルスの感染収束は先が見通せないが、サステイナブルな社会の実現に向け、お客さまの声を真摯に受け止め、スピード感を重視した課題解決型営業に取り組んでもらいたい。



栗田順公理事長
大垣西濃信用金庫

優しさと丁寧さを追求

今年の目標は、安全第一を基本に社員全員が適切な接客対応を実践する会社になること。一人一人の誠実な行動によってお客さまから信頼を得ることが事業継続の基軸であり、これに勝る近道や特効薬はない。昨年は新型コロナウイルスの影響で収入が落ち込んだが、今年はコロナ後に向け、お客さまが減少した状態が続いても利益を出す会社になる必要がある。そのためにも原点に返り、お客さまに対する優しさと親切、丁寧さを追求してほしい。



黒川公男社長
岐阜乗合自動車

「DX」進め生産性向上

「DX」「攻めと守り」「SDGs」をキーワードに時代の変化をチャンスにつなげる。当社の強みは事業の複数展開だが、コロナ禍で受ける影響も事業によって異なる。DXを進めることで生産性向上を図り、攻めと守りの戦術を立て変化に対応する。また創業以来続けるレンタル事業はSDGsの趣旨に合致する。世界的に持続可能な経済活動が求められる中「清潔と健康」をレンタル事業で提供することに自信と誇りを持って推進する。



小野木孝二社長
トーカイ